

校務情報化を推進するために

目的の明確化

学校・地域の状況に応じて「何のためにやるか」を策定

- <目的例>
- ・児童生徒にきめ細やかに対応するゆとり創出
 - ・保護者との情報共有、地域への情報公開促進
 - ・学校と行政機関との情報共有の促進
 - ・教職員の校務軽減化・効率化
 - ・情報セキュリティの確保 など

手軽で安全な仕組みづくり

「使える、使いたい」仕組みを構築

推進リーダーの配置、情報政策部門との連携など、推進体制を整備
 教職員が手軽に、安全に使える仕組み
 <ポイント>・十分なネットワーク帯域
 ・教職員一人一台の端末機器
 ・統合型支援システムの選定
 および教育委員会で一括導入
 モデル校から開始等、段階的に導入
 情報の管理・安全対策には企業等のファシリ
 ティや専門ノウハウも活用

継続的に改善を積み重ね

「さらに良くなる」改善サイクル確立

一人一人の改善や工夫を全体で共有し継続的に改善を積み重ね（P D C A）
 振り返りのため、効果測定の方法や時期をあらかじめ明確化
 見える化した効果も教職員や行政、地域で共有

<PDCAサイクル>

Plan	計画
Do	実行
Check	評価
Act	改善

利用者をしっかりサポート

「こんな風に使うとよい!」、教職員のノウハウ共有を支援

学校運営へのデータ活用/業務効率化両面で活用を働きかけ
 業務の分担方法や流れを見直し、良い使い方はまねる、学ぶ
 外部専門家やICT支援員等を活用し、教職員の負担感を軽減

なぜ今「校務の情報化」が必要なの？

教育の情報化は子どもたちが情報活用する力を育てること、授業等の指導で情報通信技術を活用すること、教員の学校事務(校務)の情報化の3つの面で推進されています。

教育の情報化の推進

子どもたちの
情報活用能力
の育成

校務の情報化

教科指導における
情報通信技術
の活用

校務情報化で子どもと向き合うゆとりを

教育の情報化における「校務の情報化」は、教職員の多忙感を解消し、子どもと向き合うゆとりを生み出すことを目指します。情報通信技術により、地域への情報公開、保護者との情報共有を促進し、学校と関係者との連携を強化していきます。また、個人情報等、大切な情報のセキュリティを確保することも効果として期待されています

地域・保護者

地域への情報公開
保護者との情報共有の促進

学校

教育の質的向上
児童生徒へのより細やかな対応

学校、地域・保護者、
教育行政との連携

中央省庁

首長部局

教育委員会

情報セキュリティの確保
事務負担軽減・効率化

●お問い合わせ・APPLICテクニカルアドバイザー派遣依頼
 校務情報化やシステム整備・運用などに関するご相談は、お気軽にAPPLICテクニカルアドバイザー(ATA)へ
 ATA派遣のご案内 <http://www.applc.or.jp/ata.html>

一般財団法人 全国地域情報化推進協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2丁目9-14 郵政福祉虎ノ門第1ビル 3F

電話 (03) 5251-0311 電子メール info@applc.or.jp <http://www.applc.or.jp>

20140801 ©APPLIC All Rights Reserved.

APPLICは、標準化を通じて校務情報化を推進します

校務情報化を支援する APPLICの取り組み

APPLICでは校務支援システムの構築・運用を支援するため、学校の進級・進学や自治体部局・教育委員会間の連携など、入力・蓄積されたデータを最大限に活用していくデータ連携の標準化に取り組んでいます。

基礎的なデータのシステム間連携を標準化

標準化は「なぜ必要」なの？

校務情報化で使われる校務支援システムは、自治体や学校毎に異なる企業や団体が開発したものです。法律で義務付けられた書類を作成する時も、システム毎にデータ項目名や形式が異なっており進学等の際、再入力が必要でした。システムのデータ連携をそろえることで、再入力の手間、転記ミスを削減することが可能になります。

標準化で「何が良くなる」の？

運用の仕組みを整備していくと
さまざまなデータ活用が可能に

- 学齢簿で作成するデータを校務支援システムに取り込めるようになります。
- 進学、転校等で学校が変わる時、データを再入力する必要がなくなります。
- システムを更改する際の移行リスクを低減します。
- 自治体業務との連携
- 将来、番号制度の活用も視野に入れた標準化を推進します。

「何を標準化」しているの？

現在は、法的に長期間の保存が義務付けられ、情報がさまざまな書類に転記される指導要録、健康診断票の書式のデータ項目、形式やシステム間の通信方式などを定めた「教育情報アプリケーションユニット標準仕様V1.1」を公開しています。



どの製品が標準対応しているの？

APPLICでは標準仕様に準拠した製品に推奨マークを発行し普及を促進しています。

- 準拠登録製品
- 準拠登録・相互接続確認製品

※APPLICのWebページで紹介しています。
<http://www.applc.or.jp/pf/entry/index.html>

来るクラウド時代での課題検討を先取り

クラウドを利用した教育の情報化を推進するため「教育クラウド整備ガイドブック」をまとめています。
校務情報に加えて、子どもの教育における学習履歴・ログ情報の蓄積、番号制度の活用などにより、安心で利便性の高いサービスの実現を目指しています。

校務情報化とクラウドは関係あるの？

校務情報化はクラウド化でさらに進展可能

ICT技術の進歩や情報サービスの多様化により、クラウドサービスを利用することで、システムを持たなくても情報の発信、加工、蓄積ができるようになりました。教育分野でも、今後クラウドサービスが更に充実し、利用者の利便性を高めていくことが期待されます。これらに加え、校務情報を安全に保持し、災害時の業務継続を可能とする有効な手段と考えられています。

校務をクラウドするメリットは？

情報システムは専門家へお任せ、教育そのものに力を注げます

- システムの対応は専門家に任せ、教職員は教育活動に注力できます。
- 教育委員会はシステム整備・更改の検討や故障時の対応が軽減し、利用者へのサポートや利活用推進施策の充実に注力できます。
- 遠隔地のデータセンターにデータが保管され、災害時の業務継続に備えられます。
- 利用サービスや利用者数の増減に柔軟に対応できます。



震災で校務PCや書類が流失。データの安全な保管が業務継続のカギ

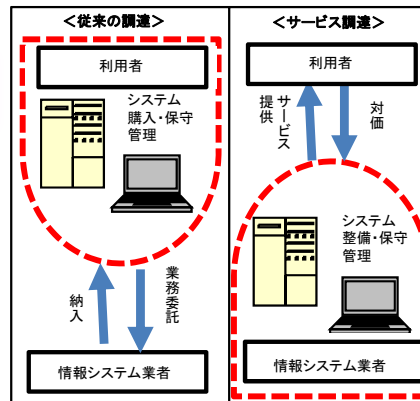
校務をクラウド型で調達する時には

従来の調達と異なる「サービス調達」を検討ください

クラウドサービスでは情報システムを提供者が所有し保守管理責任を負います。利用者は期間や利用量などに応じて対価を支払います。

サービス調達のメリット

- ①利用者のシステム保守管理負担を軽減します。
- ②毎年の財政負担を平準化します。



＜相互接続試験の様子＞